

学校経営のポイント

大相撲の力士名と“漢字の読み方指導”

若井 彌一

大相撲夏場所が決定戦（北勝力対朝青龍）の末、横綱・朝青龍の優勝で幕を閉じた。人気が「低下」「低迷」、さらには「凋落」などとマスコミで取沙汰されることが多かった大相撲であるが、今場所は平幕力士が場所を牽引する役割を果たして盛況であった。勝敗の興味とは別に、高見盛の立ち合いの前のユーモラスな入魂表現も客足を伸ばすのに一役買っているようである。

国技大相撲の外国出身力士増加

13勝2敗で優勝した朝青龍は、モンゴル出身である。高見山、曙、小錦、武蔵丸は、すでに現役を退いているが、これらのアメリカ・ハワイ出身力士に代わって、その後も外国出身の力士が増え続けており、優勝した朝青龍をはじめ、幕内だけでも関脇・旭天鵬（モンゴル）、東前頭2枚目・朝赤龍（モンゴル）、東前頭7枚目・黒海（グルジア）、西前頭7枚目・旭鷲山（モンゴル）、東前頭16枚目・白鵬（モンゴル）と、5人を数えるまでになっている。

力士名だけ見ても、日本人か外国出身かはわからないけれども、このように外国出身の力士たちが日本の国技である大相撲の中心的存在として活躍するまでに国際化が進んでいるのである。

これら外国出身の力士名を見ただけでは、これらの力士が外国出身であるかどうかはわからない。「黒海」という力士名は、地理上の黒海と関係がありそうだと想像できるが、その他は解説されてわかる程度である。それでよいのである。それで、なんの不都合もない。新聞等で力士の出身国（日本人力士の場合は出身都道府県）を読んで知って、国技大相撲の国際化を実感することも楽しい学習のひとつではないか。

ところで、今場所の優勝決定戦力士・北勝力を“ほ

くとりき”，朝青龍を“あさしょうりゅう”と読むことは小学生であれ、中学生・高校生であれ難しい。これらの力士名だけではない。西正大関・魁皇、東張出大関・武双山、東小結・雅山、前述の朝赤龍、東前頭8枚目・豪風、西前頭10枚目・闘牙、西前頭11枚目・追風海なども、相撲に興味・関心をもたない児童・生徒には正しく読むことが難しいのではないかと思われる。

力士名の読み方学習は生きた漢字学習

さらに、十両力士まで範囲を広げると、西2枚目・皇司、西3枚目・若兔馬、東4枚目・魁道、西9枚目・須磨富なども、正式の読みが難しいほうかと思われる。しかし、難しいと思われるこれらの力士名の読み方も、大相撲に興味・関心をもっている児童・生徒にとっては、おそらく何の苦もなく読めることであろう。大相撲に興味・関心をもっている児童・生徒にとっては、力士名を覚えること自体が楽しいのである。このことは、野球好きの児童・生徒がプロ野球選手名を、サッカー好きの児童・生徒がJ1・J2リーグの選手名を覚える場合にも共通している。

大相撲の場合には、国技としての歴史的な伝統から、力士にふだん読み慣れない漢字が使用されており、相撲好きの児童・生徒はこれらの漢字を楽しみながら覚えていくことができる。

すでに本紙で、文化審議会が常用漢字読み方を小学校段階で充実させることについて提言したことを解説したが、漢字読み方の効果的指導のひとつとして、力士名の学習を活用できそうである。

（わかい・やいち＝上越教育大学教授）

校長に必要な経営力と指導力とは / 読本 No.162

『新編 校長読本』

小島弘道【編】A5版220頁・定価2310円

●新刊案内●

好評発売中

教育開発研究所刊

最近の重要審議会答申等を全文収録！ 演習により“教育新時代”の経営課題を探る！

『教職研修 ’04 情報版』

菱村 幸彦（国研名誉所員）監修
B5判270頁・定価2625円